



ポルティコの広場

開学5年目をむかえて

新潟県立看護大学学長 中島 紀恵子

今春、初めての卒業証書・学位記授与式（卒業式）が本学体育館で挙行されました。4年間の学生生活を経てこの日をむかえた第1期生は90名で、無事、それぞれの就職・進学先へと巣立っていきました。第1期生の4年間のあゆみを振り返りますと、年間の恒例行事となった桜蓮祭（大学祭）や継燈式をスタートさせ、多くの学生サークルを組織し、学生自治会や同窓会を設立するなど、本学の多くの学生活動資源を彼らが創ってきた、といっても過言ではありません。私も教職員は、第1期生のこのような活動や学習の傍らを伴走しながら、彼らが学び取っていく様や、学問が自分の中に取り入れられて少しずつ言葉を吟味して用いられていく様子に、ことさらな関心をもって見守って参りました。今後は、卒業生の「たまり場」となり、卒業生に元気や学びをもたらすことのできる大きな「巣」になりうる大学環境づくりのために、いっそうの努力をしていかなければならないと考えています。

そのひとつとして、平成18年4月より大学院看護学研究科を開設しました。第1期生は11名で、多くは新潟県内あるいは上越市に住まい、看護師や保健師として働きながら学ぶことを選んだ方たちです。授業は平日の夕方や土曜日・日曜日に開講されていますが、大学院生が仕事と並行させながら、時には睡眠時間を削って学ぶ姿を間近に見ることは、教職員のみならず学部学生にとっても、“看護職として学び続けること”のモデルとその尊さを雄弁に伝えているように思われます。

本学の使命は「地域文化に根ざした看護科学の考究」です。この心は、看護学における教育・研究をとおし

て地域に貢献したいと願うマインドをもった看護実践者、教育者、研究者を本学から多数輩出することです。開学5年目にあたり、これまで以上の教育・研究成果をあげることができるよう、柔軟性に富んだ教育体制に向けて教員組織の改編を行いました。さらに今後は、教員個々の能力発揮に貢献できるよう、准教授、助教などの職位の検討を進めていく予定です。

大学の成長を通して、卒業生のみならず地域の皆様や、本学に関心をお寄せくださる方々に貢献できる教育・研究の場を、さらに充実させて参りたいと考えております。



晴れ姿の卒業生



新入生・在校生のメッセージ

新潟県立看護大学に入学して

第1学年 吉原久美子

新潟県立看護大学に入学して数ヶ月経ち、やっと大学の雰囲気にも慣れてきました。入学したばかりの頃は、高校の授業との違いに不安もありました。学習のしかたが分からなく、今も戸惑うこともありますが、友達と協力、相談してがんばっています。

大学に入って感じることは自主性と責任です。高校の頃は先生の指示にしたがって勉強をすすめていたことがほとんどでした。しかし、大学では自分で何をするか考え、実行しなければいけません。その自分で考え行動する力が、これからは大切になっていくはずなので、身に付けていきたいです。

また大学に入って大切にしたいことは、今まで以上に友達を大切にすることです。悩みや困ったことができたとき、同じ環境にいる友達とお互いに支えあって乗り越えていきたいです。そして、それぞれの目標達成にむかってがんばっていききたいです。もうひとつは、人間関係を築く中で、人の気持ちを敏感に感じ取れるようにすることです。友達関係にもいえませんが自分の

ことだけでなく、同時に周りの人の気持ちを気遣えるようにすることで、将来、人と接する仕事に役立つと思います。

勉強、人間関係を大切に、有意義な楽しい4年間にしていきたいです。



18年度入学式の様子

1年生を迎えて

第2学年（自治会長） 木村勝一

2006年、今年の春も高田には綺麗な桜が咲き誇りました。と、同時に新潟県立看護大学としては初の卒業生を送り出し、そして新たな看護大学の仲間たちを迎え入れました。卒業式では諸先輩方の堂々とした姿に自らの目標を再確認し、入学式では1年前の自分の姿を新入生に重ね合わせていました。落ち着いた雰囲気の新入生を見て、この学校に新しい風が吹き込むのを感じました。

さて、入学式から数ヶ月の月日が流れましたが、1年生の皆さんは楽しく学校生活を送っているでしょうか。今年の1年生は積極的にサークル活動、委員会などに参加しているので、同級生はもちろんのこと、先輩とも良い関係を築けていると思います。友達を作りたいと思ったら積極的にサークル活動の場などを活用してみてください。新しい仲間が増えれば、学校に来ることがとても楽しくなります。先輩方も1年生と仲良くしたいと思っているので、気負わずに声を掛けてみてください。優しい先輩ばかりですよ。

そして、皆さんせっかく大学に入学したので自分のやりたいことを見つけて、それにどんどん挑戦してみてください。今しか出来ない、ここでしか出来ないことが沢山あるはずです。一人では不可能なことならば、自分と同じ目標を持つ仲間を誘い合いましょ。仲間と一緒に目標に向かって頑張って頑張ることで、

必ず得られることがあります。成功すればもちろん、そして、たとえ失敗したとしても何一つとして無駄なく、己の人生の糧となります。この大学生活が一人一人の良い経験の場になるよう、皆で高め合っていきましょう。



3年次編入生8人からの発信

3年次編入生のみなさんからは、個々のメッセージが寄せられました。（広報）

- ・卒業と同時に看護職に就くのではなく、編入という道を選択した意味を見出しながら、様々な方々との出会いを通し幅広い視野で看護を学んでいきたいです。（赤塚千桂）
- ・患者様やそのご家族から望まれるような看護師をめざし、常に向上心の気持ちを忘れず、より深い知識・技術の習得ができるように看護学を探究していきたいです。（泉 侑宏）
- ・これまでの学校での看護学の勉強、演習、病院実習で学んだ知識や専門的な技術を活かし、大学でより一層多くの知識を学び深めて行きたいです。（大竹由貴）
- ・編入生同士とても仲良くなることができ、楽しい大学生活を送っています。就職ではなく編入学することを選んだからこそ、主体的に学習していきたいです。（小田春奈）
- ・保健師の授業が中心ですが、パソコンや研究などの私の苦手分野もゆとりある中で取り組みます。多くの知識の習得を目指します。（近藤清香）
- ・将来、地域で働きたいと思い、看護学校で学んできた知識を

さらに深めるために大学へ来ました。勉強だけではなく、沢山の友達をつくり、有意義な大学生活を送りたいと思っています。（嶋津ゆう子）

- ・私は、新潟の相次ぐ水害や震災で活躍していた保健師を知り、地域看護に関心を持ちました。地域看護を学びつて、大学生生活を楽しんでいきたいです。（坪谷知子）
- ・新しい環境での生活、出会う人々など大学に入ったからこそ得られたものがあります。そして、さらに知識を深め、広い視野で物事をみることができるようここでの経験や学びを生かしていきたいです。（渡辺かなえ）



ある日の授業風景

大学院に入って

大学院看護学研究科 大学院1年 長沼亜季子

？年ぶり、学生になりました。感想は“素晴らしい”の一語です。

看護師になることは小さいころからの夢で、卒業後、いろんなところで働かせていただきました。大変だったり、楽しかったり、感動したり、くたびれたり、いろんな経験がありました。かけがえのない年月でした。

でもその中で、解らないこと、調べたいことなどが少しずつ自分の中に出てきました。動き始めたころの疑問と、年月がたってから、また立場が違ってくるような疑問が出てきます。でも現場にいと全速力で走っている感じで、立ち止まって考えたり、文章にしたりする時間がなかなか取れませんでした。そ

して、個々の疑問に動く時には、根本、“看護の本質”からしっかり考えてみたいと思いました。

今まであまり興味を持った事のなかった歴史、哲学などもとても面白くて、人間に関係あるものなら全て看護に関係あるのではないかと考えています。

自分の信念が揺らぐときには、看護だけではなくどんなことも充実しないものになってしまうのではないのでしょうか。

今、そんなことを考えています。

そしてこのような時間は本当に貴重なものだと思っています。



院生室にて

平成18年度学外オリエンテーションに同行して

基礎看護学領域 助教授 水口陽子

4月12日(水)・13日(木)に、新入生を対象とした学外オリエンテーションが行われました。私も、学生委員会メンバー・担任として参加しました。1日目の午後は、学生がグループとなり、高田市内を歩いて探索するウォークラリーを行いました。今年初めての試みでしたが、桜の咲き始める中、町家公開の催しの時期とも重なり、高田公園、榊神社、旧師団長官舎、高橋孫左衛門、旧今井染物屋、小川呉服店などを通る4コースのいずれかを、途中コースにちなんだクイズを解きながら、散策しました。新入生は、天候にも恵まれ、高田の町並みを楽しんでいる様子でした。ゴールは寺町のサンクス高田で、そこからバスにのり、アパリゾート妙高パインバレーに向かいました。夜の学生の自己紹介等の間も和やかな雰囲気でした。2日目は、ホテルから体育館へ移動し、グループ対抗でインディアカゲー



がんぎ通りを歩く

ムを行いました。一緒に参加してみたくするような白熱した試合展開をみせてくれました。その後ホテルへ戻り、昼食を食べた後、バスに分乗し、大学へと帰路につきました。こうして学外オリエンテーションは終わりましたが、私自身も新入生との関わりを通し、楽しいひと時を過ごせました。新入生の皆さん、同行の先生方、お疲れ様でした。

学外オリエンテーション



インディアカに初挑戦

新教員・職員の横顔

■教員自己紹介 (敬称略)

名 前	栗生田 友子	渡部 真奈美	水澤 久恵	野口 裕子	横田 陽子
教科目	精神看護学	小児看護学	看護技術学	地域看護学	母性看護学
出身地	新潟県上越市	山形県	新潟県上越市	新潟県妙高市	群馬県
前 職	福島県立医科大学看護学部	広島国際大学	東京都立保健科学大学(首都大学東京)大学院修士課程	柏崎市役所(保健師)	東急電鉄 東急病院(助産師)
趣 味	ガーデニング、ショッピング	旅行、美術館めぐり	テニス、華道、旅行	ドライブ、旅行	音楽鑑賞、読書、子供と遊ぶこと
研究テーマ	脳卒中発作後の患者の身体への理解性に関する研究、せん妄高齢者へのケア、身体拘束時の看護者のシャッジメント、中途視覚障害・ロービジョンケア	入院している子どもの家族への看護	意思決定を支える看護介入、臓器移植の倫理性、災害看護	地域看護に関すること	少子化、子育て支援などについて
抱負、モットー	生きることにおいてなにかを受容することより、どう理解できるかが大切に思っています。私らしく生き、私らしく向き合い、努力すること、そうありたいと思います。	風光明媚な高田の文化にふれながら視野を広げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。	これからも色々な事に挑戦し、頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。	学生の皆さんと共に学び、考え自分自身も成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。	「がんばろう!楽しもう!」

■職員自己紹介 (敬称略)

名 前	小竹 豊	青木 正博	山田 雪絵	細谷 友裕
出身地	新潟市	新潟市	上越市吉川区	上越市
前 職	福祉保健部児童家庭課長	長岡地域振興局健康福祉環境部	上越地域振興局地域整備部	新採用
趣 味	スポーツ観戦、ゴルフ	スノーボード、ドライブ	読 書	サッカー、音楽
抱負、モットー	気になる言葉「智に働けば角が立つ、情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角人の世は住みにくい…」	「休日のための平日」がモットーです。上越は初めてなので、楽しいところ、オススメな所、色々教えてください。	早く仕事に慣れ、てきぱきとこなしていきたいと思います。	わからない事ばかりでご迷惑をおかけするかも知れませんが、少しでも役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

1. 卒業証書・学位記授与式の挙行

2006年3月17日(金)、本学体育館において、多くのご来賓や保護者の方においでいただき、卒業式が行われました。卒業証書を授与されたのは第1期生90名。多くのお祝いの言葉と花に囲まれ、晴れやかな表情で4年間を過ごした学び舎を後にしました。

2. 卒業生に聞く

この春、第1期生として本学を卒業し、かつ同窓会長もつとめる鈴木孝樹さんから、近況や4年間の思い出についてお伺いしました。(2006年6月13日、広報委員会)

広 報 : お忙しいところ、ありがとうございます。さっそく、近況から教えてください。

鈴木さん : 新潟労災病院に勤務しています。所属は脳外科で、毎日、充実した勤務ができています。最初は、うまく溶け込めるか不安もありましたが、先輩方がとても優しく、「大丈夫」とか、「これまだ見たことないでしょ。私がその部分替わってあげるから見てきなよ」と、声をかけてくれます。プリセプターに限らず、病棟全体がそういう雰囲気です。

広 報 : 鈴木さん以外の男性看護師はいいますか。

鈴木さん : 今まで病院全体に1人だけでした。その人がちょうど僕と同じ病棟なんです。同じ病棟に男性看護師がいるので

心強いし、女性の先輩も受入れに慣れています。今年は病院全体で男性看護師は4人になりました。

広 報 : 男性看護師ゆえの悩みや困難はありますか。

鈴木さん : 看護師同士ではないのですが、患者さんから、ケアの拒否というか、男の人はちょっと避けてほしいと言われることはあります。でも、それは仕方ないし、患者さんの気持ちを大切にしたいので、自分はそういうので悩んだりはしないようにしています。

広 報 : これまで、ヒヤリハットの経験はありますか。

鈴木さん : 自分は、理解が不十分のまま実施するということができない性格なので、これどうなんだろう、と思う時は必ず誰かに確認してから行います。だから、今のところ、ありません。脳外科病棟では、意識レベルが低下して、自分で訴えられない患者さんが多いので、名前や点滴の確認もダブルチェックする体制になっていて、そういった仕組みも、これまで僕がヒヤリハットを起こしていないことに関係していると思います。病院によって、安全管理の仕組みもずいぶん違うみたいですね。

広 報 : 次に大学の4年間で印象に残っていることを教えてください。

卒業生の動向

鈴木さん：1回生ということで、何もわからないし、悩むことも多かった。その反面、自分たちの独自性を出せて、自分たちのスタイルで学祭やその他の活動ができたので、そういう部分では良かったと思います。

広 報：こういう勉強をしてあげばよかったな、と思うことはありますか。

鈴木さん：就職すると、配属された病棟に特有の専門的な知識や技術が求められるから、どれって言えないです。脳外科に配属されれば、脳外の勉強しておけば良かったと思うだろうし、整形に行った人からすれば、整形の勉強もってしておけば良かったと思うのではないかな。だから、専門的な技術などは就職してからの方が学べるように思います。むしろ大学では、患者さんがどう感じるのか、どういうふうに権利を守っていくのか、など、人対人の部分での勉強をしっかりやっておいたほうがいいと思います。それを後輩にも伝えたいです。

広 報：大学への要望を。

鈴木さん：自分にはまだ足りない勉強があると思っているので、特別講義や講演会などの情報が提供されるなど、学習の機会が得られるといい。例えば、この日には1年生の授業で脳のことをやるということが分かれば、聴講したいと思います。ゼミで在校生に話をするとか、大学と卒業生のつながりを保ち続けたい。1期生は1期生、2期生は2期生と切れるのではなく、一貫した流れを作っていけば、同窓会も大学

もうまくつながっていけると思います。

広 報：では最後に同窓会のPRを。

鈴木さん：まだ発足したばかりで、自分達も仕事に精一杯でまだ活動ができないのですが、自分が考えている同窓会の理想というのは、大学と卒業生、卒業生と在校生など、大学に関わった人たちがいつまでも繋がっていけるということです。自分たちの体験を後輩に伝えることができる場をどんどん作れば一番いいなと思っています。そういったことも同窓会でやっていけたらいい、と思います。

広 報：お忙しい中、ありがとうございました。



1回生の鈴木さん

3. 卒業生(1回生)の就職の動向

		1回生
卒 業 生 数	県内	90
	県外	33
看護師として就業	県内	39
	県外	1
保健師として就業	県内	7
	県外	0
助産師として就業	県内	1
	県外	9
そ の 他		

海外研修報告

英国の精神保健福祉の現況

人間環境科学領域 講師 徐 淑子

2006年2月から3月にかけての5週間、英国のパス市に赴き、精神障害者の地域生活支援について学んできました。英国では、1970年以前に精神科慢性期病棟の縮小・閉鎖が始まっていますので、日本に先立つこと30年ほどの地域生活支援の経験があります。さまざまな施設を訪問して見えてきたことは、「なにはともあれまずはじめに家ありき」という住宅重視の発想が、精神障害者の地域ケアを定着させる土壌としてあるということでした。つぎに、Mental Health Nurse という専門看護師が中心となって多職種混合の訪問ケアチームが編成され、精神科救急との連携の下、早期介入が可能な支援体制を実現し

ていること、また、非営利組織(チャリティやボランティアの組織、社会性の高い非収益事業を行う団体)の力量がかなりあり、質の高い直接支援を行っていることでした。その一方、英国は、日本でも議論の末に成立した心神喪失者等医療観察法のモデルとなった法律を持つ国です。薬物やホームレスの問題も深刻化しています。社会が獲得したものや社会が選択したもの、社会がこれから進もうとする方向について、深く考えさせられる研修となりました。

One in four people experience mental health problems during their lifetime



What is Mind? Mind's mission is to work for a better life for everyone with experience of mental distress

資金調達から政策提言、直接支援まで行う精神保健福祉専門の非営利組織MIND

看護学実習報告

3年次臨地実習を終えて

第4学年 野上 依里香

私たち4年生は、昨年の9月から今年の2月までの約半年間にわたって、成人・母性・小児・老年・精神の各領域での臨地実習を行いました。約半年間の実習では、受け持ち患者さんの情報収集・アセスメント・看護計画立案・実施・評価・記録と多くのことに追われましたが、終わってみればあっという間に過ぎた半年間でした。また、今季は大雪に見舞われ、雪かきで筋肉痛に悩まされる毎日でした。



実習後の一コマ

「2週間あなたがいてくれたから頑張れた。ありがとう。」ある実習の最終日に私が受け持たせていただいた患者さんに言われた一言です。実習中は自分の知識不足を自覚し、落ち込んでしまうことも多くありました。しかし、患者さんのこの

一言でいままでの辛さが吹っ飛び、自分に少し自信がつけました。実習では、教科書や参考書からは学べない多くのことを学ぶことが出来、また、自分が疑問に思ったり興味を持って積極的に調べることにより自分の知識として吸収することが出来たので、この半年間で自分の考え方や自分自身を成長させることが出来たように思います。

実習を受け入れてくれた患者さんをはじめ、自分が落ち込んだとき相談にのり、励まし支えてくれた同じ実習メンバーの学生や家族、担当の先生方、また、ご指導していただいた病院のスタッフの方たちに心より感謝しています。

地域看護学実習を終えて

第4学年 小玉 真衣

2006年の6月より、約1ヶ月間にわたり、地域看護学実習を行った。地域住民の健康をアセスメントする地域診断実習、保健所や市町村における看護活動を学ぶ保健所・市町村実習、在宅療養者への看護活動を学ぶ訪問看護実習で構成されている。

私は、長岡市で実習を行った。出身も育ちも長岡市であるが、今まで、長岡市の住民が、健康に対してどのような意識を持ち、生活しているのか考えたことがなかった。しかし、実際に地域に出て、住民の方と直に触れ合い、関わることで、健康への価

価値観、考え方が様々であることに気づき、今まで以上に地域の生活者に関心を持つようになった。保健医療従事者が、地域において、疾患や様々な健康課題を抱えながら「生活している人」をどうとらえ、支援していくのか、保健事業への参加や訪問看護を体験して理解することができた。住民一人一人に生き方、暮らし、価値観があり、それらすべてを体系化し、一人の生活者としての視点でみるということが必要だと実感した。

実習を通して、住民そして保健師の方々のあたたかさを感じ、

多くの貴重なことを教えて頂いた。将来、地域に出て活躍する医療職者としての視野を広げることのできる学びができた。この実習での学びを今後につなげていきたいと考えている。



地域住民の皆さんと

連載 7 地域生活看護学領域・老年看護学

教授 北川 公子

老年看護学の教員は現在4名ですが、本年7月から新任者1名が加わります。高齢者に深い関心を寄せ、老年期にある人々の生活の質の保証にわずかでも貢献できるよう、日々の教育や研究に取り組む、という共通の志をもった教育研究グループです。

主に担当する教科目は、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習などです。年若い学生にとって、自分の何倍もの人生経験を持ち、また全く異なる時代を生きてきた高齢者の「身になって考える」のは、容易なことではありません。そのため、講義や演習の中に高齢者ご自身に自分史を

お話しいただく特別講義や高齢者の模擬体験を取り入れ、未知なる年代に対するリアリティを少しでも付与できるよう工夫しています。

教育や研究を通して、学生のみならず、当地区の高齢者ケア支援資源の一つになれるよう、さらに研鑽を重ねていきたいと考えています。



左から村川助手、菅原助手、筆者、長瀬助手

教育組織の紹介

看護研究交流センターの現在

看護研究交流センター長 吉山 直樹

I はじめに

新潟県立看護大学看護研究交流センター(Niigata Research Institute of Nursing, NIRIN)は、実践的な学術支援などの交流活動を通じて、この施設における研究成果を地域に還元し、新潟県内の保健医療福祉の質の向上に貢献することを目的とし、4年制大学発足時の平成14年4月から併設された機関である。

センターは、保健医療福祉に係わる課題について新潟県のシンクタンクとして研究活動を行うこと(地域課題研究)と並行して、政府、企業、その他各種団体からの受託研究を支援する研究事業を実施する。これに加えて県民の生涯教育の支援および看護職者の専門教育支援、他大学・地方自治体・諸団体との地域連携、地域ネットワーク形成支援、大学や地域の情報化促進支援、国際的な学術交流の支援、諸外国の研究者との共同研究支援、等の機能も担当することとしている。

II 組織の変更について

研究員を専任教員(助手を含む)全員としている点は変わらないが、今年度からは大学院看護研究科生が研究組織に加わる。学外共同研究員とともに登録方式や実際の研究上の位置づけなど、県の組織としての制限のなかで最大限の活性化を図る方法を検討中である。以下、運営組織を紹介する。

(1) 全体会議

年に数回、不定期で開催される全体会議は、研究員および学外共同研究員により構成され、全員参加を前提にセンターの各種の重要な運営事項について承認を行う組織である。

(2) 運営会議

毎月第4週木曜日に開催される運営会議は、センターの実際の運営全般を行うもので、事業計画の策定、事業予算の配分、事業計画の進捗管理、事業実施成果の公開(年報発行を含む)、部会の統括、等が主たる業務となる。メンバーとしては、センター長、各部会長、事務局長の他、センター長が指名する者がこれに加わる。

(3) 部会

今年度より、センター規程を改定して運営会議のもとに、図に示す6つの部会を置くことができるようになった。このうち5部会が発足し、活動を開始している。

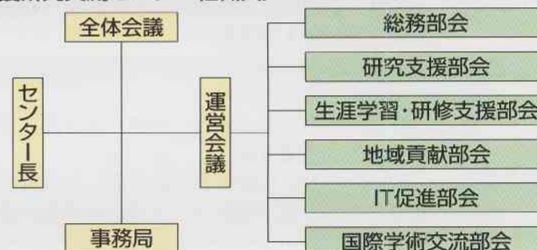
(4) 事務局

事務局は、その実務を教務係に担当して頂いているが、セ

看護研究交流センター

ンター担当事務職(事務局兼務)が1人いる。今後は、センター活動が盛んになって常勤の事務職による対応が必要になるならば、願ってもないことである。

〈看護研究交流センター組織図〉



III 部会の活動について

1. 部会の人員構成

部会名称	部会長	副部会長	部会構成員数
総務部会	加固正子教授	関谷伸一教授	5名
研究支援部会	柿川房子教授	藤田尚助教授	5名
生涯学習・研修支援部会	深澤佳代子教授	山本淳子講師	5名
地域貢献部会	吉山直樹教授(併任)	栗生田友子教授	5名
IT促進部会	橋本明浩助教授	堀 良子教授	8名
国際学術交流部会	(未設置)	(未設置)	(未設置)

2. 総務部会の活動

センターの総務的な仕事を横断的に担当する。①年間事業計画の策定、②年間行事計画の策定、③年報の発行、④センター予算全体の包括的調整、⑤会計報告、等の業務を担当している。

3. 研究支援部会の活動

1) 地域課題研究

新潟県のシンクタンクとして、①地域ケアの推進体制に関するもの、②保健医療分野の情報化に関するもの、を主題とした地域課題を学内公募し、調査研究活動を行ってきた。

業務として、地域課題研究の募集・審査し、計画を定める。応募の他、政策的な研究計画について研究者を指名した委託研究の検討も担当してきた。研究進行の確認についても年度の中途に中間研究検討会を行ってきた。研究費の年次推移を次表に示す。

表1 センター地域課題研究費の年次別推移				
	応募件数	採択件数	委託研究	配分研究費総額 (単位:万円)
平成14年度	14	14		662
平成15年度	16	16		778
平成16年度	10	9		521
平成17年度	10	9		617
平成18年度	現在、審査中			467

2) 研究支援活動

センターが組織として関わりをもった他大学および他機関・施設との共同研究は、本部会の管掌事項となる。その他の研究支援活動として、科学研究費補助金に関する情報提供、書類作成支援を研究者自身の同意のもとに少数のエキスパートが支援することとしている。その他の外部研究資金に関する情報提供も本部会の管掌事項である。科学研究費補助金の採択状況を下表に示す。

表2 科学研究費補助金採択状況一覧(新規採択分のみ)の件数と採択率%

公募研究種目	平成15年度			平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	応募	採択	%	応募	採択	%	応募	採択	%	応募	採択	%
基盤研究(A)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	1	0	0	2	0	0	1	0	0	7	0	0
基盤研究(C)	7	1	14	6	4	67	5	1	20	21	4	22
萌芽研究	4	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
若手研究(B)	4	2	50	3	1	33	2	1	50	15	4	31
総 計	17	3	18	12	5	42	8	2	25	45	8	20

4. 生涯学習・研修支援部会の活動

生涯学習・研修支援部会の活動内容は、市民向け生涯学習支援として「一般公開講座」を行ってきた。時代にマッチした企画を立案し、講師依頼、パンフレット作成、実施体制、記録、等の業務が部会の仕事となっている。

1) 特別講演(講演者名)

これまでの特別講演は次のような講師によって行われた。

- 平成14年度 「国際共生の時代のために」 石川好氏(秋田公立美術工芸短期大学学長)
- 平成15年度 「地域に根ざした看護の発展をめざして」 南裕子氏(兵庫県立看護大学学長)
- 平成16年度 「看護政策の課題と展望」 田村やよひ氏(厚生労働省医政局看護課長)
- 平成17年度 「自らの歩みから得た看護観を通して看護技術の意味を問う」 永井敏枝氏(国際看護師協会奨学基金理事)

平成18年度の特別講演は、9月16日(土)に丸地信弘氏による「高齢化社会を乗り切る健康観を見直そう～市民参加の時代の保健・医療・福祉の連携を考える～」が予定されている。

2) 一般公開講座シリーズ

「女性と看護」、「認知症ケア」、「看護とジェンダー」、「サクセスフル・エイジングへの挑戦」、「ナイチンゲールの時代から現代看護を読む」、「海外の看護と日本の看護」等を実施してきた。

た。好評であったエルダリィ・スクール企画を本年度は「スロー・エイジングへの挑戦」と「認知症サポーター100万人キャラバン」の2つに拡大して実施する。

3) 専門講座シリーズ

看護職員人材育成支援として、「専門公開講座」を実施している。看護職者を対象とするもので、①看護英会話セミナー、②看護情報処理セミナー、③看護研究の基礎知識、④看護研究ステップアップコース、等がある(③④は本年度休止)。

9月29日(金)に国際医療福祉大学の中西睦子氏による「職場で育つものと育たないもの」というテーマの講演が予定されている。

4) 出前講座・研修会支援

「感染予防と衛生ケア」、「糖尿病教室の講義・グループワーク」、「食生活改善指導推進のために」等を実施してきた。予算とマンパワーのバランスを考慮し、各自治体からの要請がある場合にのみ対応している。

5) 看護職員臨地実習教育支援事業

新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会は、県内の看護師等の学校・養成所の学生の臨地実習の現場において、その実習の指導者になる者を養成する講習会である。

平成18年度の受講定員は50名で、時期は8月21日(月)～10月20日(金)までの40日間で実施され、総授業時間で240時間となっている。

5. 地域貢献部会の活動

平成16年、上越教育大学との「地域貢献に関する連携協議会」を設置し、覚書を締結した。平成17年度には、同協議会の部会として「地域貢献部会」を新設し、この部会の仲立ちにより上越市との共催で、「食育フォーラム in 上越」を開催した。上越教育大学とは将来学生・教員の交流とともに講義等の共有化が可能か検討を始める予定である。

その他、平成18年度は、上越市、両大学、新潟日報、新潟県の5者共催による「上越はつらつ元気塾」の企画が進行中であり、これへの協力も本部会が担当している。



上越はつらつ元気塾

6. IT促進部会の活動

課題となる事業として、大学や地域の情報化促進支援がある。大学内は、LAN接続されている300台に及ぶ共用パソコンを設置済みであり、今後の課題として、実習施設からの教員・学生・実習施設のスタッフが大学の情報への安全かつ迅速なアクセスが可能なIT環境の構築、および学外研究員および大学院生からも安全かつ迅速な情報アクセスが可能な条件を検討する予定である。

7. 国際学術交流事業の活動

国際的な学術交流、教員の国際交流、諸外国の研究者との共同研究、姉妹校締結、等の課題があるが、部会の成立要件の検討を開始し、設置は平成19年度以降の課題としたい。

トピックス

1. 学長特別研究費中間報告会の開催

2006年2月23日(木)、13時～16時まで、本学第2ホールにおいて、研究推進委員会の主催による平成17年度学長特別研究費中間報告会が開催されました。当日、学長委託研究1題、共同研究3題、個人研究7題の計11題について、途中経過ならびに成果の一端が報告されました。

2. 日本在宅ケア学会の開催

2006年3月4日(土)、中島学長が大会長をつとめた第10回日本在宅ケア学会学術集会(メインテーマ:災害時の在宅ケア)が本学にて開催されました。前日の雪もやみ、当日は晴天に恵ま

れ、多くの学会員や県内の関係者にご出席をいただくとともに、教職員と学生有志がスタッフとして学会運営に協力しました。

3. 後援会総会の開催

入学式にあわせて、2006年4月6日(木)、11時30分より、平成18年度新潟県立看護大学後援会定期総会が本学ホールにて開催されました。新1年生の多くの保護者の皆様にご出席をいただき、本年度の事業計画案と予算案を承認いただくとともに、新旧役員のご紹介がありました。



後援会総会会場

4. PBLチュートリアルに関するガイダンスの実施

3年次に開講される看護学演習・PBLチュートリアルに関するガイダンスが、2006年5月15日(月)、10時30分から、本学第一合同講義室において、3年生を対象に開催されました。PBLチュートリアルの実施計画は、看護学系の各教科目代表者で構成されたPBL運営会議において検討され、本年は加固教授が議長をつとめています。

当日は加固教授による学習方法の概略説明の後、具体的な進め方やグループメンバーなどについて説明が行われました。



討論中の学生グループ

5. 看護研究交流センター地域課題研究報告会

2006年5月18日(木)、13時30分から、本学第一ホールにて平成17年度看護研究交流センター地域課題研究報告会が開催されました。司会進行を総務部会の加固教授がつとめ、3分野、計9つの課題研究の成果が報告されました。



地域課題研究報告会

6. 高校生のための公開授業の実施

2006年度は5月から11月までの間、本学で開講している授業の一部を高校生に公開しています。6月20日には2年生の「基礎看護技術演習Ⅱ」の授業に、6名の高校生にご参加いただきました。2年生と一緒に「フィジカルアセスメント」というテーマで、実際にシミュレーターを使った呼吸音の体験や、打鍵器を用いた神経系のアセスメントを体験していただきました。参加された高校生は興味深そうに機器を扱ったり、テキストを覗き込みながら学習されていました。高校生の新鮮な眼差しに触れ、在校生にとってもよい刺激となったようです。



聴診の演習

7. 実習懇談会の開催

2006年6月15日(木)、14時～16時まで、本学第1ホールにて実習懇談会が開催されました。当日は37名の臨床講師のうち、ご出席いただいた方への辞令交付が行われ、引き続いて2005年度の実習総括、ならびに本年度の実習計画について実習委員会の担当者から説明がありました。この後、実習領域ごとに具体的な実習計画について、臨床側との意見交換を行いました。お忙しい中、実習機関から合計47名の方々にご出席いただくことができました。



堀委員長による実習計画の説明

8. 平成18年度学長特別研究費採択課題一覧

	課 題	研究代表者
学長委託研究	看護教育における生物医学領域の効果的教育方法に関する研究	中野 正春
	周産期看護に関するCAI教材の開発とその効果	佐野 京子
共同研究	精神看護における看護技術の構築に関する研究～身体拘束を決定する看護士のクリニカルジャッジメントの様相と実施時に生じる感情の処理過程	栗生田友子
	専門看護士の教育に関する研究～日本および米国のCNS-NPの教育と実践から	野地 有子
個人研究	家族ケアに関する新人看護士の学びのプロセスと教育支援に関する研究	山田 正美
	新潟県上越地域における若年層の乳がんに対する認識の実態調査	石岡 幸恵
	父親・母親と子どもの接点足跡面に関する基礎的研究	加城貴美子
	ベトナム・ハンセン病患者処遇の実態とライフコースについての研究	渡辺 弘之
	薬物・アルコール乱用防止教育とエイズ教育の統合モデルについての基礎的研究	徐 淑子
	がん化学療法を受けている子どもの食事ケアに関する実態調査	大久保明子
	看護研究を行う学生の英文読解力向上に有効な教材開発のための基礎的研究	中村 博生

9. 平成18年度科学研究費採択課題一覧

1) 新規採択課題

研究代表者	課 題 (期間)	研究種目
山本 淳子	異文化DVD教材を用いたCALLシステムによる児童英語教育の実践(2006～2007年度)	基盤研究
加固 正子	看護師のための小児救急「電話トリアージ・マニュアル」の開発に関する研究(2006～2008年度)	基盤研究
北川 公子	高齢患者に対する経管栄養法の長期適用において看護実践家が見出しているエビデンス(2006～2007年度)	基盤研究
小林 恵子	子ども虐待事例に対する保健師のケアの検証と評価に関する研究(2006～2008年度)	基盤研究
松下由美子	看護実践能力育成のための学習者の個別性に応じたブレンドラーニングの開発(2006～2007年度)	若手研究
長瀬 亜岐	災害サイクルにあわせた高齢脳卒中患者への食生活支援に関する研究(2006～2007年度)	若手研究
斉藤 智子	対応困難を生じている介護支援専門員に対する支援技術の構築(2006～2007年度)	若手研究

2) 継続課題

研究代表者	課 題 (期間)	研究種目
井上みゆき	新生児看護の倫理:重症障害新生児の最善の利益を守るケアの構築(2005～2007年度)	基盤研究
藤田 尚	韓国勸島出土人骨に関する形質人類学的研究(2004～2006年度)	基盤研究
高柳 智子	高齢者の医療用粘着テープによるスキントラブル予防に関する研究(2004～2006年度)	若手研究
菅原 峰子	高齢脳卒中患者のせん妄に対する看護士の臨床予測に関する研究(2005～2006年度)	若手研究

10. 「上越はつつ元氣塾」開催

臨床看護学領域 講師 渡部 真奈美

本学と上越教育大学が地域貢献を推進するために運営協議会を中心に準備を進めてきた「上越はつつ元氣塾」が5月27日(土)上越教育大学講堂において開催されました。

第1回目はキックオフシンポジウムとして、記念講演とパネル討論による2部構成で行われました。「ふみ子の海」の映画監督である近藤明男氏を講師にお招きし、高田でのロケにまつわる裏話、編集の映像などを交えながらのお話でした。

パネル討論は、「地域がはぐくむ教育力」というテーマで、本学の中山学長、上越教育大学学長、上越市長、上越市教育委員の直原氏の4人の講師により活発な討論が行われました。その中で中山学長は「塾」の語源を紹介し、元氣塾のめざすべき方向として、「ご近所の底力」すなわち、新しい学びや仲間との自由闊達な経験を重ねていくことにより、自分を生かしたり地域を生かしたりすることにもつながるという考えを示されました。また上越教育大学学長は、高田の教育と文化の伝統を継承していくこと、直原氏は思いやりがあり人々が安心して働ける地域文化を形成していくことが必要であるということが話されました。

なお第2回目は、6月24日(土)午後2時から上越文化会館中ホールで、教育評論家・斉藤次郎さんの講演が開催されました。

連載 6

「住ま研」とは…

第2学年 住ま研代表 吉崎 真未

私たちの「住ま研」は、母体である「快適住まい環境研究会」の学生部として、上越地域における快適で安心な住環境を作ることを目的とした活動を行っています。例えば何らかの問題が生じ、今まで暮らしていた生活に不具合が生じた時、住環境の観点からその不具合の軽減をはかり、何とか今まで暮らしてきた生活に近づける方法を考えるというような活動です。

私たち学生部の活動は不定期で、3年生5人、2年生3人で活動を行っています。昨年は化学物質過敏症について調べ、実際に化学物質過敏症と診断された方の所へ行き、市民活動フェスタで発表したり、脊髄損傷で車椅子生活を送ることになった方の新しく建築された家を見学させていただいたりしました。

今年も昨年と同じく、市民活動フェスタで8月27日(日)に化学物質過敏症について、色々な方にもっと知ってもらうことを目的に発表を行うので、興味のある方は是非いらしてください。今はフェスタの発表で一杯ですが、これからも様々な問題に目を向け、より良い住環境について考えていきたいと思っています。



サークル紹介

入試関連情報

1. 平成19年度 入学試験の概要

■募集人員

入学定員	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推薦	社会人	前期	後期
90名	30名	若干名	50名	10名

※一般選抜入試前期試験の募集人員には、社会人特別選抜の若干名を含む。

2. 平成19年度 3年次編入学試験の概要

募集人員	10 名			
出願資格	次の各号のすべてに該当する者 ①看護系短期大学を卒業した者（平成19年3月卒業見込みの者を含む）、または、学校教育法第82条の10の規定に基づき看護系専門学校（専修学校専門課程）を卒業した者（平成19年3月卒業見込みの者を含む）。ただし、学校教育法第56条に規定する大学入学資格を有する（見込み）者に限る。 ②看護師免許取得者（平成19年取得見込みの者を含む）			
試験科目	看護学・英語・面接		試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	平成18年7月31日～8月7日			
試験期日	平成18年9月6日		合格発表	平成18年9月15日

3. 平成19年度 大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）入学試験の概要

募集人員	15 名			
出願資格	次の各号のいずれかに該当する者 ①学校教育法第52条に定める大学を卒業した者および平成19年3月卒業見込みの者 ②学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者および平成19年3月31日までに修了見込み者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および平成19年3月31日までに修了見込み者 ④文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号） ⑤本大学院において個別の審査により大学を卒業した者と同等以上の学力が認められた者で満22歳に達した者（※⑤の資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要です。）			
事前面談	出願する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と面談することが必要です。			
事前面談期間	平成18年7月10日～7月21日			
試験科目	英語・看護専門科目・面接		試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	平成18年7月31日～8月7日			
試験期日	平成18年9月6日		合格発表	平成18年9月15日

4. オープンキャンパス

新潟県立看護大学の概要や来年度の入試概要を、受験希望の方や、看護系へ進学を考えている皆さんに知っていただくため、オープンキャンパスを開催します。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加下さい。

- 期 日 第1回：平成18年 7月27日（木） 第2回：平成18年 8月 2日（水）
各回とも12時から受付を開始し、所要時間は13:00～17:00の予定です。
- 内 容 大学の概要、平成19年度入試日程のほか、施設案内、体験学習、個別相談を行います。
- 申込方法 参加希望の方は、事前に「氏名」、「学校名」、「参加希望日」を、電話、Fax、またはメールにて、下記までお知らせ下さい。
（毎回120名程度の定員としますので、本学で参加日を調整させていただくことがあります）
- 問 合 せ 教務学生課学生係 電話 025-526-2811、FAX 025-526-2815、E-mail: kyoumu@niigata-cn.ac.jp

5. 平成18年度 1年次入学者状況

選抜区分	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
一般推薦	H17.11.26	30名	52名	33名	1.58	33名	33名(100%)	1名(3%)
社会人特別選抜		若干名	5名	0名	0	0名	0名(0%)	0名(0%)
一般選抜（前期）	H18.2.25	50名	132名	54名	2.64	48名	23名(48%)	7名(15%)
一般選抜（後期）	H18.3.13	10名	58名	12名	4.83	11名	7名(64%)	0名(0%)
合 計		90名	247名	99名	2.49	92名	63名(68%)	8名(9%)

6. 平成18年度 3年次編入学者状況

試験種別	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
3年次編入学	H17.9.7	10名	12名	9名	1.33	8名	6名(75%)	1名(13%)

7. 平成18年度 大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）入学者状況

試験種別	実施日	募集人員	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
一 次 募 集	H18.2.19	15名	14名	11名	1.27	11名	11名(100%)	2名(18%)
二 次 募 集	H18.3.20		2名	0名	—	0名	—	—

※募集人員については、一次・二次募集合わせて15名

編集後記

このニュースが皆様のお手元に届くころは、梅雨も明け、夏本番という頃でしょうか。今、上越から見える遠くの山々はまだ残雪が見え、今年の冬の厳しさが思い起こされます。沖縄から豪雨による被害ニュースが入ってきます。この時期に水害を体験している地に住む者としては他人事とは思えず、胸が痛むとともに、季節が穏やかに通り過ぎてほしいと願うばかりです。

さて、本学では3月には第1期の卒業生を送り出し、4月には初めての大学院生も迎えることができました。卒業生の活躍を楽しみに、そして、外からの新鮮な風を受け入れながら、自分自身も日々変化していきたいと思っています。（広報委員 小林恵子）



新潟県立看護大学

Niigata College of Nursing

本学ホームページ

<http://www.niigata-cn.ac.jp>

広報委員会（北川公子、小林恵子、山本淳子、渡部真奈美）

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地

Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815

E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

発行日：2006年7月18日

